

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4310710613		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホーム くすのき		
所在地	熊本県天草市楠浦町288番地9		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前中には、リハビリ体操やレクリエーションを取り入れ、気候の良い日は日光浴やドライブ等たのしんでいます。地元の入居者も多く、地域の方々の交流も図れ他にも養護学校の児童との交流も定期的に行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年見慣れた目の前の海は、太陽の姿を一番に味わうことができ、入居者に活力を与えている。経験豊かな職員や「入居者に学びながら自分にできる支援に努めたい」と明るく語る若い職員・男女のバランス良い職員配置は、ホームの目指す“日常生活全般を、残存能力を活かし不安のない明るいホーム”の力となっている。母体医療機関や隣接デイサービスの看護師長・PTによる連携は入居者家族の安心やレクリエーション活動の機会を広めている。長年地域に貢献し信頼の厚い、入居者とも顔なじみである母体医師や運営者の変わらぬ訪問など法人全体でホームが支えられていることが窺える。今後も地域の中で自然の恵みと多くの人々に支えられ職員の持ち味を活かした“くすのき”の成長が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活、自宅と同じ環境の断続支援にしたい理念を作り上げている。ミーティングでも、スタッフで理念がケアに反映されているかを話し合う事で共有している	ホーム理念である“安らぎを与える私の我が家”と併せ、法人理念の”地域住民との生きがいのある生活の維持”を掲げ、運営者との話し合いや毎日のミーティングで共有し、グループホームのあるべき姿を常に問いながら、入居者・家族の思いに応えるホームを目指して全職員で日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加しホームの前にあるゲートボール場へも散歩へ行き声を掛け合ったりしている。玄関も解放しいつでも入れるようにしている。定期的に天草養護学校児童とも交流を実施している	ホームの目の前にあるゲートボール広場は地域住民の触れ合いの場となっており、入居者との交流も日常的に行われている。広場で開催される夏祭りには入居者・職員の参加も恒例となるなど地域との関係が構築されていることが窺える。又、継続している養護学校児童との交流が入居者に“笑顔の時間”となっていることが記録や掲示写真より窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を開催し認知症への理解を広める取り組みをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には地域の代表の方も来て下さり地域の方の支援を受けている。また、課題についても報告し意見を頂いたりしている。	二か月に一度と定例化した会議には、地域代表者の参加もあり、入居者と地域の関係構築に繋がっている。又、転倒が続いた入居者の報告の中で、参加者よりベッドや畳の利点、職員が見守りやすい居室の場所などケアに繋がる意見やアドバイスが出されている。	議事録の記載方法をわかりやすく検討し、家族へ配布することで共有や家族の参加意識に繋がることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点、問題が生じたときは電話や訪問にて相談を受けている	書類提出や介護保険などに関して役所を訪問したり電話で相談を行い改善に繋がっている。現在のところ運営推進会議への参加による直接のアドバイスを受けるには至っていない。	運営推進会議への案内と共に会議の報告の機会を作ることで、より協力関係が深まることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中解放し離設されそうな時はさりげない声かけを行う。又、センサーに頼ること無いよう皆で話し合っている。定期的な勉強会を行っている	法人内の研修会やホーム内の定期研修会・ミーティングの中でマニュアルや事例を通し、拘束について理解を深め拘束のないケアの実践に努めている。転倒の心配があり、やむを得ずセンサーマットを使用する場合は、家族へ説明を行い承諾を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待防止に関する理解を深めている。虐待発見時の対応についてもマニュアル化している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金一覧を使い月のおおよその利用料説明や重度化した場合の看とりについても説明している。そのとき、家族、本人の意見を聞くようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のなかで利用者からは、話を聞いたり、家族の面会時は職員から声かけをして家族の意見を聞くよう努めている	入居者の要望は日頃の聞き取りや関わりの中で把握に努め、家族に関しては運営推進会議や意見箱を設置し要望を聞き入れたり、日頃より意見や要望の出しやすい雰囲気作りに努めている。「魚料理を色々食べたい！」という入居者の要望に対して、ホームでは地元ならではの新鮮な魚介類を鮮魚店から購入し献立に取り入れ入居者の楽しみに繋げている。	設置場所や利用のしやすさなど職員間で話し合い、利用に繋がる意見箱となっていくことが必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	師長を含めたミーティングを月に1回開き意見を聞いている	ミーティングの中で職員の意見や要望を吸い上げ法人主任会議で報告・検討を行っている。入居者のADLの低下による安全面への配慮から、入浴の際の椅子の購入など早急な改善に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており職員の声に耳を傾けている。また、人事考課を行うようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	事業所外の研修を受講しやすいように勤務として出してもらっている。職員の経験に応じた研修に声かけを行っている。研修内容はミーティングで発表し復興している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会があり学習会がある。連絡会の忘年会もあり交流するきかきもある		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行って本人の要望を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活パターンや情報の収集をしたり家族の要望を聞いている。その時に家族の方の苦労なども耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談をうけ今何が必要なのかを見極め事業所外でも必要なサービスがあったら他機関を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たず喜びや悲しみを共にしている。職員が知らない事など利用者にかきいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず近況報告を行い遠いご家族には電話により報告を行い様子を理解していただいている。家族の意見もきき一緒に考えてもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りに参加したり散歩時に交流を図っている。また、友人より電話、手紙などのつながり断続している	地元の夏祭りでは自慢の歌を披露したり、知人との再会など楽しみとなっている。また、散歩を兼ね自宅の様子を確認に同行したり、馴染みの人への電話や手紙のやりとりを支援している。家族との外食・祝い事や盆、正月の帰省・外泊の際は入居者の健康状態を関係者に細かく報告し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用スペースの席は固定せずに色々な方とかかわりが持てるようにしている。職員も側に座り一緒に会話を持つようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了しても会いに行ったりしている。家族よりの相談にもものっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、表情などから意向を聴きだしている。困難な場合にはカンファレンスを行い意見を出し合っている。	入居者の日頃の表情や会話の中から、思いや意向を汲み取るように努めている。又家族の訪問時に聞き取りや遠方の家族へは、入居者の担当職員が電話で尋ねたりと本人本位に検討しケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前に本人、家族より、情報を集めている。利用後も本人、近所、家族などから話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅時と変わらないリズムに心がけをしている。できる力を暮らしの中で見つけ出し、生活の中で出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の中で思い、意見を聞きだし反映している。カンファレンス、モニタリングも職員も含め行っている。	本人・家族の希望を取り入れ担当職員を含め職員全体でカンファレンスを行っている。話し合いでは毎回計画担当者を中心に、“日常生活全般を大切に、残存能力を活かし不安のない明るいホーム生活”となるプラン作成・見直しを行なうことを確認しあっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケア記録を作り、気づいたことの情報共有し、月1回のミーティングでも採り上げみなおしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の他職種連携を図り意見の交換を行っている。併設される医院と医療連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員や地域包括支援センター職員も参加していただき、意見の交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間に1回の受診を行っている。他科診療が必要なときは、医師、看護師より、よく説明し同意を得て受診同行をお願いしている。	母体医院をかかりつけ医としている。二週間に一度の受診や必要に応じた往診を支援している。他科受診の場合も家族と一緒に職員も同行するなど連携を密にとりながら入居者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、介護職員は気づきを相談している。夜間も連携を図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による混乱を防ぐ為にも医療機関と情報を共有し、職員も面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の説明を入居者の方に行っている。重度化の時期には家族、医師、職員で何度話し合い安心して支援できるようにしている。	重度化した場合の対応については、入居時に説明を行い同意を得ている。また重度化した時点で医師を含め話し合いを行い、共に過ごしたその方にホームとしてできる限りの支援に繋げている。	重度化や終末期の対応については、入居者や家族・職員のメンタル面にも配慮した研修会の実施により、取組みの自信に繋がっていくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受けている。対応方法も年に1回見直し、マニュアル化している。電話の横に貼りすぐ見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の消防訓練を行っている。又、他事業所より協力が得られるように一緒に訓練を行っている。	隣接デイケアサービス事業所と合同で、年2回の訓練を実施している。近隣の家族も参加しており、消防担当者が日頃より地元消防団との関係を深め協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する同意書を契約時に同意を得ている。人格を損ねない言葉かけをするように努め職員間でも注意しあっている。	定期的にマニュアルや事例を通じた研修を行い、全職員で共有し実践に努めている。入室の際のノックや声かけ・入浴や排泄時の対応もプライバシーや尊厳に配慮し、方言を使いながらも慣れ合いの言葉にならないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ、飲み物など複数のものを出し個人に選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、各個人の気持ちを尊重し、個別の支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時以外でも食べこぼしなどさりげなくカバーしている。更衣時も本人の意見を聞いたり、一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の方と一緒に考えたり、四季の物を取り入れたりしている。準備の皮むきやきざみなども一緒に行っている。	入居者と一緒に考え、母体の栄養士より助言を受けた献立は、菜園の野菜や旬・地元の食材にこだわったメニューであり、入居者の楽しみとなっている。食材の下ごしらえや味見・テーブル拭きなど入居者のできることを支援している。	わかりやすい献立表の様式を検討し、家族にも報告することで安心にも繋がると思われる。又、職員は各自弁当やホーム食など自由となっているが、毎日誰か一人は検食を兼ねた担当者を決め、入居者と同じものを食し共有することで楽しい食事支援に繋がることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取の表を作成し、摂取量を把握し必要に応じ間食を増減している。水分も自ら飲まれない方には声かけ介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携を行っている。食後の口腔ケアは個人の能力に応じ、声かけ、うがい等の手伝いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表により、各自の排尿パターンを把握し、尿意の訴えがない方にも時間を見て声かけ誘導をしている。	一人ひとりの排泄パターンや仕草・表情により声かけ・誘導を行っている。居室にトイレが設置されており入居者のペースに応じた排泄支援である。昼間はできるだけ布パンツの支援を心掛け、夜間も必要に応じては安全面からポータブルトイレを使用するなど個々に応じた支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝コップ一杯の牛乳やヨーグルト等を提供したり、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認し入浴していただいたり、チェック表を利用し入浴できていない方には声かけをする。拒否の場合は時間を空けたり、スタッフを交代したりと工夫している。	毎日入浴の準備を行い週三～四回の支援を行っている。拒否の方の場合もその方に応じた声かけや、時間の工夫を行い間隔が空かないように支援し清潔保持に努めている。入居者は好みのシャンプーを使用したり、柚子や菖蒲湯など季節風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活のリズムを整えている。個人に合わせ午睡もやっている。落ち着かれない場合は、添い寝をしたり、会話をもちリラックスしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を管理室保管し、いつでも見れるようにしている。薬に対する疑問は、看護師や薬剤師に相談している。処方変更時は必ず記録し、状態変化を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝いや、洗濯物たたみを行ってもらい感謝の意を示している。出来る事を見つけたらスタッフ間で共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各担当があり、一緒に買い物に出掛けたり、家まで散歩したりしている。又、家族の方が散歩に連れて行かれることもある。デッキへ出て日光浴を楽しんだりしている。	海岸に面したホームの前は広場もあり車の往来も少なく車いすでも日常的に散歩や散歩・外気浴を楽しんでいる。近くの自宅まで散歩したり、ドライブを兼ね買い物に出かけたり、菜園の手入れなど思いおもしろい外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ小額を手元においていらっしゃる。事業所で管理する場合は家族に報告し、サインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の希望に応じ電話をかけている。又、内容が他者に聞こえないよう少し離れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁は、季節のもの、写真等を飾ったりしている。温度管理も温度計を設置し、温度を調節したり、利用者の方に聞き調節している。	目の前の海が見渡され高い天井と窓に映えるカーテンの明るいリビングは、季節の花や品々・壁面が飾られ、入居者の笑いがいつの間にか歌声に変わる居心地の良い空間である。浴室や特にトイレの設置された居室は清潔を心がけ気持ち良く過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、ソファを置きくつろいでいただいている。デッキに出てゆっくりと過ごされることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、馴染みのある物を持ってきていただいている。写真を飾ったり、遺影を持ってきている方もいらっしゃる。配置も利用者の方と一緒に考えるようにしている。	テレビや家族の写真、馴染みの品が持ち込まれ、入居者や家族の思いがこもった居室となっている。職員も入居者が気持ちよく安全に過ごせるよう、個々に応じ寝具を整えたり、家具の配置を家族と一緒に検討している。居室入口は入居者の作品や花の名前が付けられ温かい雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールのトイレには、判りやすい様に「トイレ」と書いた張り紙をしている。廊下には手摺りの設置をしている。居室にはポータブルトイレを置き、夜間利用されている。		